

# タールサンドと先住民運動

根岸 恵子（事務局・国際部）

カナダ・アルバータ州といえば、大抵の人はバンフやジャスパーといった風光明媚なカナディアンロッキーの大絶景を想像する。しかし、アルバータ州には北海道と九州と四国を合わせたほどの広さの漆黒のタールサンド鉱床があることを知る人は少ない。その大地には先住民が暮らし、いま彼らはタールサンドの採掘と精製過程で生まれる有害物質のために環境も健康も壊されている。

## 汚い石油

アルバータ州、アサバスカ川流域に広がるアサバスカ鉱床は、広さが14万1000平方キロメートルに及ぶカナダ最大のタールサンドの鉱床だ。大地は黒々とえぐられ、大きな穴を穿っている。その広さは日増しに増え続けている。

このタールサンドの埋蔵量はカナダをサウジアラビアに次ぐ第2の産油国に押し上げた。しかし、タールサンドは石油と違って複雑な精製過程を経なければ役に立たない。まず温水を使ってビチューメンと呼ばれるタールの一種を抽出し、さらにそのビチューメンから石油に精製するのに、500度の熱で分解するか、低温度で熱しながら溶媒攪拌しなければならない。タールサンドの生産・精製の過程で生じる温室効果ガスは北米全ての火力発電所を上回るといわれている。さらにこの巨大なプロジェクトが生み出す環境破壊はそれに留まらない。精製過程で生み出される有害物質が周辺の環境に及ぼしている影響は甚大だ。

タールサンドから1バレルの石油を取るためにはタールサンドを2トン採掘しなければならない。そのためには広大な森林を伐採し2トンの表土を剥がす。数バレルの熱湯でビ

チューメンを分離し、この過程でできる廃液は貯水池に流される。貯水池の広さは130平方キロメートル。浜名湖の倍の広さだ。しかし排出される廃液は収まりきれず決壊し、周辺の川や湖を汚染している。廃液にはヒ素、鉛、水銀などの有害物質が含まれ、古くから川や湖からの恵みによって暮らしてきた先住民に健康被害を与えている。

汚染物質を排出し、地球温暖化に拍車をかけ、自然と生態系を破壊するタールサンドは「汚い石油」と呼ばれている。

## 先住民の警鐘

アサバスカ川流域に古くから暮らして来たデネ族やクリー族は、タールサンドの採掘や開発に抗議している。カナダ政府は彼らの声を聞く耳を持たず、抗議するものを次々と逮捕した。政府は黒いドロドロが川や湖を汚染しているのを見て見ぬ振りをし、美しい国のイメージを自ら汚している。

かつてタールサンドの採掘地は豊かな森で覆われていた。先住民たちはヘラジカやバイソンといった野生動物を狩り、川魚を漁り、森林からは多大な恵みを得て暮らして来た。彼らは必要以上に狩りをしたり採集したりはしない。そんなことをすれば種が減り自分たちが生きていけなくなることを知っているからだ。1970年代まで先住民たちはそうやって自然を守ってきた。しかしタールサンドの開発は彼らの暮らしや自然を全く破壊してしまった。

汚染された川の水がアサバスカ湖に流れ込み、魚は奇形のもので生まれるようになった。10年くらい前から、白血病やがんになる先住民が増え始め、危険性を訴える医師は、政府から危険人物とされ移転を余儀なくされて

しまった。アルバータ州政府は一貫して水質汚染を否定し、採掘による汚染物質の長期的な影響は考えられないと公表している。

先住民は「タールサンドに含まれるたった10%の油のために、古い森を丸裸にし、表土を剥がし、巨大な穴を掘り続け、有害物質で川も湖も汚染してしまった。タールサンドは地球が100万年以上かけて作り上げたものを、わずか40年で破壊してしまった」と嘆く。タールサンドの開発はアマゾンの森林破壊の規模に匹敵する。

### パイプライン問題

この地球規模的な環境破壊は、タールサンド採掘と精製過程で生じる有害物質のことだけにとどまらない。重質油という粗悪な石油を輸送する手段として、カナダ・米国には縦横無尽にパイプラインが張り巡らされる計画だ。アメリカでは激しい抗議活動が行われ、ホワイトハウスには何千人の抗議者が押し寄せた。

もっとも問題になっているのはキーストーンXLパイプラインだ。アルバータ州ハーディスティとアメリカ・テキサス州を1711マイル、約2800キロメートルで結ぶ。一日の輸送能力は83万バレルにもなるという。

事業を推進するのはカルガリーに本拠地のあるトランスカナダだ。天然ガスなども含め

5万9000キロに及ぶパイプラインのネットワークを持つ巨大企業だ。しかし、トランスカナダのパイプラインはたびたび事故を起こしており、人々に懸念を与えている。また環境保護団体は、キーストーンXLパイプラインの計画そのものが、アサバスカのタールサンド採掘を促進し、環境破壊と気候変動のリスクを悪化させると訴えている。

2012年1月18日、オバマ大統領はこのパイプラインを認可しないという結論を出した。問題となったのはネブラスカ州内の生態学的な影響に対する懸念だった。オバマ大統領の決定に共和党の議員は「数万人の雇用を消失させた」「少数の過激な環境保護派の勝利」などと反論した。またトランスカナダは推進する方向を曲げてはいない。ルートを変更することによって、新たなキーストーンXLパイプラインの計画が9月に申請されたのだ。現在は、承認待ちの状態だ。

### 抗議行動とパイプラインの事故

キーストーンXLパイプラインが通過するサウスダコタやテキサスはパイプラインの建設を拒否している。2012年の9月にはテキサス州ダラスから100キロ東のウィンズボロでツリーシットिंगの抗議行動が起こり、10月には78歳の女性と女優のダリル・ハンナが抗議行動中に逮捕された。彼女は映画『キル・ビル』で冷酷な殺し屋を演じていたが、環境保護活動家としても有名だ。今年2月14日にワシントンD.Cのホワイトハウスでの抗議行動で再び彼女は逮捕された。この時の逮捕者は48人に及び、シエラクラブ幹部のマイケル・ブリュヌ、弁護士のロバート・ケネディJr.、全米黒人地位向上協会（NAACP）の前のトップのジュリアン・ボンド、NASAの気候学者のジェイムス・ハンセンらがいた。ハンセンは『ニューヨーク・タイムズ』紙に「カナダがこのままオイルサンドの開発を続けるなら、地球は終わりになるだろう（Game Over）」と書いた。



やんばる散策 2013年5月9日

この抗議行動は、同月17日に行われるデモに向けて行われたもの。当日には全米やカナダから4万人が集まり、オバマ大統領に対してキーストーンXLパイプライン計画の歯止めになるように訴えた。集会在ワシントンD.Cのナショナル・モールで行われ、先住民のリーダーとしてジャクリーン・トーマス、それからオバマ大統領の前のグリーン・ジョブ顧問のヴァン・ジョーンズ、「350.org」のビル・マッキベンなどが演説台上に上がった。

ジャクリーン・トーマスは「私たちは、私たちが大地を大切にすれば、大地は私たちに養ってくれるということを教えられてきた」と語った。キーストーンXLパイプラインへの反対運動は全国に広がりつつある。

そして運動に勢いをつけるように3月29日にアーカンソー州メイフラワー付近で、エクソン・モービルのペガサス・パイプラインから原油が大量に漏れる事故が起きた。黒々とした汚いオイルは町の中に流れ出し、気分の悪くなる臭いを町中に拡散し、20軒以上が避難を余儀なくされた。ドロドロは自然を汚し、人々の大事な水源をも汚染する勢いだった。

ペガサス・パイプラインは1日に9万6000バレルの原油を輸送するが、キーストーンXLパイプラインは1日に83万バレルを輸送する。もし事故が起きたら大惨事になる。トランスカナダはこの事故がパイプライン推進に影響しないとうそぶいているが、事故が政府の決定に影響することは明らかだ。

### 先住民の「アイドル・ノー・モア」運動

カナダでは昨年12月に総括的な「C-45法」が議会で可決された。内容は「カナダ国内のTPP」と呼ばれるほどの悪法で、陰ではアルバータのタールサンド開発を促すために決められたといわれるほどだ。

カナダには数えられないほどの湖と河川があり、ほとんどが淡水のため、かねてから水資源として狙われてきた。かつては保護の対象だったが、この悪法で水は金に換えられる。レーガンとサッチャーが水を商売の対象としてから、わずかな期間で多くの湖や地下水が

枯渇した。世界のどの国に行っても、今やペットボトルに入った水を買うのが当たり前になっている。カナダの美しい景色が無くなるのはそう遠くないかもしれない。またこの法律では先住民居留地の土地の売買が制限から自由となる。先住民の大地には豊富な資源があり、カナダ政府の狙いはそれを自由に手に入れることにある。

この悪法に対して立ち上がったのは、アタワピスカト族のチーフ、テレサ・スペンス。彼女は4人の先住民の女性によってはじめられた抗議行動「Idle No More(アイドル・ノー・モア)」(もうアイドルリング、様子見してる場合じゃない)を合言葉に、12月11日、極寒の凍結したオタワ川の中洲でハンガーストライキに入った。その運動は瞬時に北米の先住民に広がり、各地で大規模なデモや抗議行動が続いている。

カナダの先住民は貧しく、職がなく、家がなく、教育水準も低く、自殺者が多い。この状況にアムネスティや国連が懸念を表している。しかし、保守的なカナダのハーパー首相は素知らぬ顔で、納税者から集めた金を先住民が無駄に使っているとキャンペーンを張って、この運動に対抗した。スペンスのハンストは1月24日まで続けられた。結局ハーパーと先住民のトップとの話し合いになり、スペンスは批判の対象となった。

しかし、「アイドル・ノー・モア」運動はキーストーンXLパイプラインへの抗議行動と共鳴し、北米各地で運動が続いている。3月にはサンフランシスコで抗議行動があった。バナーには「パイプライン反対」や「アイドル・ノー・モア」の文字がある。その中でも「母なる大地を守れ」という言葉が目をはひく。彼らは地球の命そのものを守ろうとしている。

琉球民族と基地の問題は、パイプラインと先住民の問題と、根は同じに思えて仕方がない。占領者によって捨て石にされた人々は、土地も権利も失い、人々から置き去りにさせられている。「もう御免だ。私たちはいる」。それが「アイドル・ノー・モア」運動の叫びのように思う。